

農地整備を契機とした 地域営農構想の実現

□対 象 登米市中田町上沼桜場地区担い手経営体
(4法人(法人設立予定の1個別経営体含む))

□活動期間 令和7年度

□登米農業改良普及センター

チーム員 ◎佐藤聖一、安達芳則、須藤邦彦、正井佑、木村優太

1

促進計画の概要(R7.3月)

現況(令和6年度)		
経営・組織形態	着色	耕作面積 (ha)
農地所有適格法人	PO1	1.35
農地所有適格法人	PO2	0.44
★規模拡大志向農家	A01	5.95
個別経営農家		47.40
農用地面積 計		55.14
目標(令和21年度)		
経営・組織形態	着色	耕作面積 (ha)
農地所有適格法人	PO1	3.28
農地所有適格法人	PO2	5.43
農地所有適格法人	PO3	1.45
★農地所有適格法人	PO4	37.72
個別経営農家		3.61
農用地面積 計		51.49

担い手への集積・集約
【現況】集積率14.04%、集約化率0%

【目標】集積率92.97%、集約化率74.42%

作付計画 (ha)		
作物	現況	計画
水稻 (内、計画:有機米5.5ha)	43.1	28.7
大豆	0.2	17.4
飼料用米	2.8	0
ばれいしょ	0.6	3.1
長ねぎ (畑地を含む)	0.1	1.3
たまねぎ	0.5	0.7
自己保全 (畑地を含む)	6.6	0
大麦(裏作)	0	17.4
計	53.9	51.2

3

1 背景・ねらい

▶ 上沼桜場地区では、令和元年から地域の将来像について話し合いを開始。令和3年に地域営農構想をとりまとめ。

▶ 構想実現のため、農業競争力強化農地整備事業(受益面積51.5ha、受益者数92人、予定工期R8~R16)の令和8年採択を目指し、地域の合意形成を進めてきた。

▶ 担い手経営体は、新規設立予定の1法人(1戸1法人)を含む4法人。

▶ 新規設立の1法人が受益面積の70%以上を担う計画。経営計画の検討や法人設立に向けた支援が求められている。

▶ 農地整備事業を契機に園芸作物(高収益作物)の導入も計画。安定生産に向けた栽培技術習得についても支援が求められている。

2

1 背景・ねらい

<定性的目標>

- ・上桜場地区を担う新規設立法人経営体の経営計画が明確になる。
- ・地域営農構想の実現に向けた担い手間の話し合いが継続され、課題が明確になる。

<定量的数値目標>

担い手法人の設立

R6:0 → R7:0 → R8:1法人

4

2 活動内容

(1)法人設立支援

- ・ 経営課題の整理
- ・ 専門家派遣（税理士、社会保険労務士）
- ・ 先進事例の視察研修
- ・ スマート農業技術等に関する情報提供



担い手と課題について話し合い

5

2 活動内容

(3)担い手会議の開催支援

- ・ 担い手間の話し合いが必要となる状況にはならず、開催は見合わせ
- ・ ほ場整備事業推進委員会での情報収集



推進委員会の様子

7

2 活動内容

(2)高収益作物の栽培支援

- ・ 加工用ばれいしょの試作（令和5年～）
カルビーポテト(株)と連携
- ・ 登米ばてと組合（9経営体）の活動を通じた技術習得
生育・収量調査、巡回指導
現地検討会、実績検討会の開催
試作の振り返り、次作での対策検討を支援



昨年発売された商品
登米生産者バージョン

6

3 活動の成果とポイント

(1)法人設立支援

①専門家派遣

- ・ JA担い手支援部署、県農業経営・就農支援センターと連携し、専門家を派遣。
専門分野の助言指導により課題解決を支援。
- ・ 第1回 6/17 JA主催相談会への参加（中小企業診断士ほか）
- ・ 第2回 8/26 税理士の派遣
- ・ 第3回 11/19 社会保険労務士の派遣

➡ **令和8年2月に法人設立**

8

3 活動の成果とポイント

(1)法人設立支援

②先進事例の視察研修

- ・目指す経営内容と類似する経営体を選定
- ・後継者も参加、将来の方向性を共有

【研修内容】

法人化してよかったこと、苦勞したこと
設立時の留意点、経営継承の取組状況など



視察研修 (R7.12.12 大崎市鹿島台)

9

3 活動の成果とポイント

(2)高収益作物の栽培支援

①加工用ばれいしよの試作

R 7 収量：3.1 t/10a

(組合平均：2.2 t/10a)

目標3t/10aを達成

高温乾燥のため緑化、小玉も発生

R 8 作付計画

70a → 90aへ拡大

R7登米ぼてと組合 生産者別実績
10a収量 (kg)



11

3 活動の成果とポイント

(2)高収益作物の栽培支援

①加工用ばれいしよの試作

- ・令和7年度 作付3年目 作付面積70a
- ・組合活動を通し、基本技術を着実に習得
- ・大型機械の3戸共同利用、共同作業が定着

→ **徹底した排水対策、適切な肥培管理の実践**
播種～収穫までの各種作業が効率化

10

加工用ばれいしよの試作



R7.5.27 生育状況①



R7.7.11 生育状況②

12

加工用ばれいしょの試作



R7.7.30 収穫作業

収穫した ばれいしょ

13

5 今後の活動

- (1)法人支援
 - ・新規設立法人の経営計画のブラッシュアップ
 - ・スマート農業技術に関する情報提供
- (2)高収益作物の栽培支援
 - ・登米ぼてと組合の活動支援を通じた栽培指導

15

4 成果指標の達成状況

<定量的数値目標>

担い手法人の設立

R6:0 → R7:0 → R8:1法人

R7(実績):1法人

- ▶ 令和8年2月 法人設立(1戸1法人)
- ▶ 高収益作物として加工用ばれいしょの有利性を確認

14